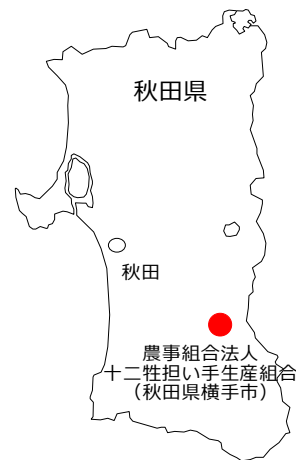


〔農業生産法人〕

農事組合法人 じゅう に しょうにな て せいさんくみあい 十二牲担い手生産組合 (秋田県横手市)

余剰労力を活用し露地キクの産地化に貢献



I 組織の概要

- 1 名称：農事組合法人 十二牲担い手生産組合
- 2 代表者：本間 恒 ほんま ひさし
- 3 設立年：平成17年度
- 4 所在地：秋田県横手市金沢
- 5 集団の形態：農事組合法人
- 6 構成農家数：2戸
- 7 経営面積：47.2ha

II 土地改良事業の概要

地区名	事業名	工期	受益面積	主要工事
金沢	担い手育成基盤整備事業	H8~17	245ha	区画整理 245ha、暗渠排水工 244ha

III 表彰理由

担い手育成基盤整備事業によるほ場の大区画化を契機として、県内でも早くから水稲直播栽培や耕畜連携によるWCSを導入し、作業の分散化と省力化を推進。

余剰労力を活用し導入した露地キクは、地域を代表する生産量となり産地化に貢献するとともに、地域内雇用を創出しつつ複合経営を実現した県内外のモデルとなる組織経営体。

また、小中学生の農業体験指導者として地域内高齢者が能力を発揮するなど、地域の活性化に貢献。

IV 活動の概要

1 沿革

事業を契機に、平成11年に任意組織「十二牲担い手生産組合」を設立。その後、平成18年に法人化。地域農業の担い手を明確にし、農地集積を図るとともに、発生した余剰労力を活用し花卉部門として小ギク生産に取り組み、経営を複合化。

2 水稲直播栽培による省力化

県内でも早くから水稲直播栽培を導入し、現在では主食用米の5割以上が直播栽培。直播栽培により育苗管理の省力化や資材コストの削減を図るとともに、品種構成による作業時期の分散化を図ることで、少ない機械で大規模経営を実現。

3 小ギク導入による複合経営の確立と産地化

省力化により生じた労力を活用し、複合部門として露地小ギク栽培を導入、拡大。地下かんがいシステムの施工による高収量・高品質生産を実現し、地元JA取扱量の2割を生産し、小ギクの産地化に貢献。

4 地域内雇用の創出や農業体験学習の受け入れ

集落内の6名を常時雇用するほか、高齢者や兼業農家を農繁期に臨時雇用するとともに、小ギクの採花等の繁忙期には集落内の高校生や非農業者をアルバイト雇用し、地域内雇用を創出。

また、修学旅行や地元小中学校の農業体験学習を積極的に受け入れ、子供たちの農業に対する理解促進に貢献。

法人の活動状況



農事組合法人十二牲担い手生産組合の皆さん



WC S用稲の収穫作業



小ギク（転作）のほ場



小ギクの収穫作業



高齢者も主力選手



農業体験の受け入れ（田植え体験）